

# 平成22年度 自己点検・自己評価表

大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

## 1. 本学の建学の精神

“桃李不言下自成蹊” とうりものいわざれどしたおのずからこみちをなす

「成蹊」の名称は、中国の司馬遷の『史記』に由来しています。「桃や李は何も言わないが、その美しい花や実すももにひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道（蹊）ができる」という意味です。

徳が高く、尊敬される人物のもとには徳を慕って人々が集まってくるというたとえです。

## 2. 本園の教育目標

強く 明るく 考える子ども

3歳児 喜んで 幼稚園へ来る子ども

4歳児 友だちと なかよく遊べる子ども

5歳児 力いっぱい 遊びやしごとをする子ども

## 3. 今年度重点的に取り組む目標

変化していく社会の中で、幼児期の重要性を押さえ、保育で大切にしたいことを教職員が共通理解をし、

「心通じる挨拶」の励行と「遊び」を「学び」につなぐ保育の実践を目標とする。

また、時間をかけて質の高い体験を積み重ねて構築される人間関係において、子どもの育ちあい、保育者同士の育ちあい、さらに、保護者との関係を深め、「共育て」を可能にしたい。

## 4. 評価項目の達成及び取り組み状況と今後取り組むべき課題

	評価項目	取り組み状況と今後の課題
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"><li>学園の建学の精神や園の教育目標をふまえ、幼稚園教育要領を理解し、教育課程を編成する。</li></ul>	幼稚園教育要領をふまえ、各主任を中心に教育課程の再作成に取り組んでいる。今後は保育所保育指針や小学校学習指導要領についても理解を深め、実践していけるように研修会を積極的に行う必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"><li>指導計画は、幼児の発達に即して、一人ひとりの幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために作成する。 また、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をする。</li></ul>	指導計画については、各年齢の“保育歳時記”から領域を書き出し、日々の保育を振り返り、厳しい視点で日案等を見直していくよう努める。
	<ul style="list-style-type: none"><li>保育についての反省や評価を適切に行い、改善を図る。</li></ul>	毎日の話し合い（年齢ごと、全体）で、保育中の子ども一人ひとりの様子や対応を保育者間で理解し合えるように努めた。各保育期ごと各教員が公開保育を行い、チーム保育を徹底し、年齢ごとの保育環境を研究し合う。

Ⅱ 保育の在り方 幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの幼児をよく観察し、個々の発達の姿や課題について見通しをもって指導する。</li> </ul>	<p>各担任で個人記録はとっているが、形式及び内容が担任任せになってしまっている。園独自の“園児の指導記録”を作成し、形式を定めることで子どもを見る視点を共有化を図るように努める。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員全員が、園のすべての幼児について理解できるよう、さまざまな工夫をし、指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全員で、特によく話し合い、共通理解をもって対応する。</li> </ul>	<p>毎朝ミーティングを行い、幼児の事や、保育の事について話し合い、共通理解して幼児に接することができるようにしている。特別支援教育に関する研修には、積極的に参加し、教職員全体で話し合い、共通理解に努めた。特に、かかりつけのクリニックに養護教諭と担任が同席し、直接担当医から話を聞くなど、より園全体で理解を深めることができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方がないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを、常に観察する。</li> </ul>	<p>教職員で安全点検を行い、遊具・施設・設備の安全を確認し、改善の必要がある場合は、速やかに対処している。保育中は、保育者同士、協力し合って幼児に目を行き届かせている。自分のクラスだけでなく、常に全ての幼児の安全を意識するよう努めている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど、適切な処置を行う。</li> </ul>	<p>担任と養護教諭とで連携をとりながら処置を行い、医師による診察が必要な場合、至急保護者に連絡し、その後、完治するまで配慮・援助をする。また、怪我の経過や、発生時の状況等を記録し会議の中で取り上げ、今後同じことが起こらないように共通理解する。</p>
Ⅲ 教師としての資質や能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対し、幼児の事や自分の保育の事を解りやすく話すことができ、保護者との信頼関係を築くことに努める。</li> </ul>	<p>保育参観や個人面談、クラス懇談の際、また他の機会でも保護者と顔を合わせた時に伝えるようにしている。必要な場合は、電話や書面にて連絡し、学年だより・園だよりで知らせたり、園で話し合う機会をもっている。園からの緊急連絡に備えて、今後はメール配信を導入予定である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を述べたり、他の意見を素直な気持ちで聞いたりして、議論した上、決定したことは協力し、実行する。</li> </ul>	<p>毎日行うミーティングや学年会議、職員会議において、教員一人ひとりが自由に意見を述べる中で、幼児の事、保育の事について話し合っている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学附属の幼稚園として多くの教育実習生を受け入れ、適切な指導を行う。</li> </ul>	<p>一年を通じて断続的に児童教育学科の学生を受け入れ、実習記録や指導案作成など、毎日行う担任教員との反省会において、学生一人ひとりに指導している。また、様々な形態の反省会（学年ごと、異年齢等）に参加することで、色々な保育者や実習生の意見を聴く機会を設けている。今年度途中で、実習記録の書き方を、より保育者の配慮事項に注意できるように改善した。絵本の読み聞かせや手遊び等の実技指導を希望する学生も多いことから、実習期間中に実技指導の機会を設けたい。</p>

Ⅳ 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児について、保育について、家庭教育について、情報交換の機会を設け、共通理解を得るように努める。</li> </ul>	各行事を土曜日に行うこと、また、保育参観を今年度初めて土曜日に行ったことは非常に喜ばれた。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については、園長や教頭、学年主任に報告や相談をし、内容によっては、教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する。</li> </ul>	各行事ごとの他、毎月の園だよりと一緒にアンケート用紙を配布した。日々の保育について気付いたことや、園への要望など多く聞くことができた。また、担任だけでは、対応できない保護者に対しては教員皆で意見を出し合い、対応策を考え解答した。
Ⅴ 地域とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方に園の行事の案内を行い交流を図る。</li> </ul>	9月に「こみちアートフェスティバル」を開催したが、卒園児のみならず、多くの地域の方々が参加し、大変喜ばれた。また、地域の子育てサークルに園の施設を開放した。(7月・9月・12月・1月・2月)「こみちであそぼう」として、在園児と遊ぶ機会も設けたが、非常に好評であった。今後も年度当初から計画し、早めに案内できるように心がけたい。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との連携を行う。</li> </ul>	地元の小学校の見学や、小学校からの招待の他、短大の教員による模擬授業など、実施した。また、一部の小学校では、指導要録を送付するにあたり、配慮の必要な子どもに対して、小学校の先生と年長組の担任とが直接話し合いの場をもつことができた。
Ⅵ 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の質の向上のため、自己課題をもって研修会や研究会に、すすんで参加する。</li> </ul>	幼児の発達の姿をとらえるための各種研修会にも積極的に参加するように努めた。今後は、幼稚園教育要領から小学校の学習指導要領への連続性を重視し、小学校の求める子どもについて話し合いの場を設け、理解を深めたい。

## 5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通理解し、それぞれ自己評価し、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての今後の課題を明確にすることができた。

## 6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	毎月の避難訓練(火災・地震・不審者侵入)の他、防犯訓練や、交通安全指導等も、関係機関と連携し、取り組んでいきたい。 怪我の発生防止のためにも、安全な環境構成、危険対象などについて、再確認する。
教員の資質向上	ティーム保育を実践していく。 “個人指導記録”を作成することで、一人ひとりの発達を深く観察し、目標到達のために援助していく。また、園内で実技研修を行い、技術のレベルアップを図る。

## 7. 学校関係者の評価

・各保育ごとのイベントにご出席をいただくと同時に園運営について6名全委員にアンケートを実施した結果、運営面、学校評価において、概ね良好、積極的に取り組んでいるとの意見を得られた。